

主 題：イエスはよみがえられた

聖書箇所：コリント人への手紙第一 15章12-20節

主イエス・キリストの救いに与った弟子たちは、このすばらしい救いのメッセージ、福音のメッセージを語り続けていました。初代教会においても弟子たちは、あなたがたは「いのちの君を殺しました。しかし、神はこのイエスを死者の中からよみがえらせました。私たちはそのことの証人です。」と使徒3：15にあるように、イエス・キリストの証人としてすばらしい福音のメッセージを語り続けたのです。

今日、皆さんとごいっしょに見ていくコリント人への手紙第一15章には、福音宣教が為されていたのはあのエルサレムだけではなくて、クリスチャンたちが遣わされて行ったそれぞれの場所でその働きが為されていたことが分かります。Iコリント15：12には「ところで、キリストは死者の中から復活された、と宣べ伝えられているのなら、どうして、あなたがたの中に、死者の復活はない、と言っている人がいるのですか。」とあります。「復活された」ともうすでに起こった出来事を完了形で記しています。そして、「宣べ伝えられている」ということばを敢えて現在形を使ったのは、過去に起こった出来事を人々は今も継続して宣べ伝え続けているということを行っているのです。

弟子たちは確かにエルサレムに始まって、そして、ユダヤ、サマリヤ、地の果てまで出て行ってこの福音のメッセージを語り続けて行ったのです。パウロはコリントの町にあってこの福音のメッセージを語りました。1年半そこに滞在してメッセージを語ったのです。イエス・キリストだけが救い主であると、イエス・キリストの十字架と復活を語り続けたのです。

ところが、今読んだように、メッセージをただ聞いていただけでなく、福音のメッセージを信じたはずのクリスチャンたちが、このイエス・キリストの復活に関して疑問を抱き始めていたと言います。確かに、これはパウロにとっては驚くべき出来事だったでしょう。なぜなら、このことは福音の最も大切な部分だからです。実は、パウロはこの福音とはどういうものなのかを分からせるために、もう一度、読者たちにそのことを思い起こさせるために、15章の1節から大切な福音について教えています。

15：1-11をご覧ください。「1 兄弟たち。私は今、あなたがたに福音を知らせましょう。これは、私があなたがたに宣べ伝えたもので、あなたがたが受け入れ、また、それによって立っている福音です。2 また、もしあなたがたがよく考えもしないで信じたのでないなら、私の宣べ伝えたこの福音のことばをしっかりと保っていれば、この福音によって救われるのです。3 私があなたがたに最もたいせつなこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、4 また、葬られたこと、また、聖書の示すとおりに、三日目によみがえられたこと、5 また、ケバに現れ、それから十二弟子に現れたことです。6 その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現れました。その中の大多数の者は今なお生き残っていますが、すでに眠った者もいくらかいます。7 その後、キリストはヤコブに現れ、それから使徒たち全部に現れました。8 そして、最後に、月足らずで生まれた者と同様な私にも、現れてくださいました。9 私は使徒の中では最も小さい者であって、使徒と呼ばれる価値のない者です。なぜなら、私は神の教会を迫害したからです。10 ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。そして、私に対するこの神の恵みは、むだにはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。しかし、それは私ではなく、私にある神の恵みです。11 そういうわけですから、私にせよ、ほかの人たちにせよ、私たちはこのように宣べ伝えているのであり、あなたがたはこのように信じたのです。」

福音のメッセージ、それは神が私たち人間のために備えてくださった「救いの道」です。この福音は人間が作り出した宗教の教えとは全く異なるものです。というのは、宗教は我々が何とか神に到達するために考え出したものです。みことばが教えるように、神が私たちに「救いの道」を備えてくださったのです。これが神が私たち罪人に備えてくださった救いの手段です。このメッセージを私たちが見るときに、どのようにすれば私たちの罪が赦されるのかを知ることができます。「キリストは私たちの罪のために死なれたこと、また葬られて三日目によみがえられたことを信じる信仰によって、その人のすべての罪を神は赦してくださる。」、これがパウロがこのコリントの教会に宛てて改めて彼らに教えた神の真理でした。

しかし、それでいて教会の中にはこの復活を疑うような人たちがいたのです。どうしてそのようなことが教会に起こっているのか？容易に想像がつかず。私たちは今「コリント人への手紙」を学んでいますが、教会の中にいろんな人たちが入り込んでいたこと、また、教会が周りからいろいろな影響を受けていることをすでに見て来ました。恐らく、この二つの理由からこの教会にも神の真理を疑ってしまうような信仰者が生まれて来たのでしょう。

◎コリント教会に復活を否定する人たちがいた理由

1. この世からの影響

すでに見て来たように、哲学を愛したギリシャの人々、自分のひいきとする哲学者たちがいた訳です。彼らはパウロの語る福音のメッセージを聞いたときにそれを「大変愚かしい、馬鹿げたことだ」とそのように彼らはそのメッセージを嘲りました。「死んだ人間が死からよみがえるなんて有り得ない…」と。使徒17:32に「死者の復活のことを聞くと、ある者たちはあざ笑い、ほかの者たちは、『このことについては、またいつか聞くことにしよう』と言った。」と記されています。このように人間の知恵を愛して人間の知恵に頼って生きていた人たちからすると、このイエス・キリストの福音を聞いたとき、それは余りにも簡単過ぎて自分たちの知性をくすぐるものではなかったゆえに、彼らはそれを拒絶したのです。

間違いなく、そのような影響が教会にはあったのです。ですから、復活を否定するような考え方、その考えを持った哲学者たちが影響を及ぼしたということは十分に考えられることです。

2. 偽教師からの影響

もう一つの理由は、教会の中に入り込んで来た偽りの教師たち、偽兄弟たちの存在です。すでに学んだように、どの時代でもどの場所でも神の働きが為されるときには、それに逆らう者たちが必ずその働きを邪魔します。なぜ、彼らがこの復活を否定するのか？「復活」は私たちの信仰において最も大切なことの一つです。イエス・キリストが死からよみがえって来たことによって、イエスはご自分が語って来られたすべてのことが真実であることを証明したのです。イエスはご自分が神だということを明らかにされました。神である以上、その死に勝利して当然です。神にできないことがあればそれはもう神ではないからです。もちろん、人間にはできないことが山ほどあります。でも、神はすべてのことがお出来るようになる全能のお方です。イエス・キリストがその死から敢然とよみがえることによって、言われていたように、確かに、「イエスは神である」ということを証明されたのです。

また同時に、「約束の救世主であること」を証明されました。もし、イエス・キリストが死んでそのままであったなら、罪人に必ず神のさばきが下ることも、この天と地が滅んでしまうことも、そういったイエスが教えてくださったすべてのことが否定されてしまうのです。だから、その復活をみなが攻撃するのです。復活を何とか否定することができたら、私たちの信仰の土台が揺らぐからです。ですから、多くの人たちはイエス・キリストの十字架を認めることができても、復活を信じることができないと言います。そのような方々がいることも知っています。なぜなら、復活を認めることによって、イエスが言われていたようなお方であることを認めざるを得ないからです。

人間というのは、神がいることを知っていながらその神を信じようとはしません。でも、神がいることを知っているゆえに、私たちは自分にとって都合の良い神々を作り出して、そういった神々に仕えることを選択した訳です。ですから、人々はこの復活を徹底して否定しました。例えば、「イエス・キリストを十字架につけろ！」と群衆を先導して、イエスを十字架に追いやったユダヤ教のリーダーたち、パリサイ人や律法学者、また、祭司長たち、この人たちが裁判官であったピラトの許にあることを願いに出て来るのです。そのやりとりは非常に滑稽です。マタイの福音書27:62-66「:62 さて、次の日、すなわち備えの日の翌日、祭司長、パリサイ人たちはピラトのところに集まって、:63 こう言った。「閣下。あの、人をだます男がまだ生きていたとき、『自分は三日の後によみがえる』と言っていたのを思い出しました。:64 ですから、三日目まで墓の番をするように命じてください。そうでないと、弟子たちが来て、彼を盗み出して、『死人の中からよみがえった』と民衆に言うかもしれません。そうなると、この惑わしのほうが、前の場合より、もっとひどいことになります。」:65 ピラトは「番兵を出してやるから、行ってできるだけだけの番をさせるがよい」と彼らに言った。:66 そこで、彼らは行って、石に封印をし、番兵が墓の番をした。」

ピラトは番兵を出してやるからあなたたちの思う通りにやりなさいと言い、そして、墓の周りにはローマの番兵がだれもからだを盗んでいかにしようと番をしていました。彼らは思ったことでしょう。こうすればだれも盗むことがない…と。ということは、復活という事実を私たちは完全に否定できる、イエスは何度もそのことを話していたとしても、よみがえることなど有り得ない。ゆえに、この墓に納められたイエスのからださえしっかり守っていれば大丈夫だと、彼らはそのように考えて番をさせるのです。

ところが、皆さんご存じのように、マタイ28章には、そのように番兵に守られていたその墓、その中からイエス・キリストは敢然と肉体を持ってよみがえって来られたことが記されています。その時の様子が書かれています。マタイ28:11-15「:11 女たちが行き着かないうちに、もう、数人の番兵が都に来て、起こった事を全部、祭司長たちに報告した。:12 そこで、祭司長たちは民の長老たちとともに集まって協議し、兵士たちに多額の金を与えて、:13 こう言った。「『夜、私たちが眠っている間に、弟子たちがやっ

て来て、イエスを盗んで行った』と言うのだ。:14 もし、このことが総督の耳に入っても、私たちがうまく説得して、あなたがたには心配をかけないようにするから。」:15 そこで、彼らは金をもらって、指図されたとおりにした。それで、この話が広くユダヤ人の間に広まって今日に及んでいる。」。本当に彼は墓からよみがえって来られた、その証を聞いても、実際に番をしていた兵士たちの証を聞いても、彼らは信じようとしな。人間ってそうですね。信じたいものだけを信じるのです。信じたくないものは、たとえそれが真実であったとしても信じようとしません。まさに、ここに最も良い例を見て取ることができるわけです。

この宗教家たちはまさにそうでした。ですから、このような人たちの影響を彼らは受けているのです。ですから、彼らが攻撃するのは私たちの信仰の土台となっている「復活」です。そのようなものに惑わされて、もしかすると持っている確信がぐらついたのかもしれませんが。でも実際に、いろんな間違った教えによって確信がぐらつくということは、私たちも日々経験しませんか？もしかすると、皆さん、これまでの信仰生活の中で、私たちはイエス・キリストだけが救い主であると言っているけれど、どうしてイエスだけが救い主だと言えるのだろうか？どうしてこの信仰だけが本物であって、他はそうでないと言えるのだろうか？などと思いませんか？

周りの人たちは私たちに「あなたたちの言っていることはおかしい。何を信じていても究極的には同じ所に行くのだから…」などと、いろいろなことを言って私たちが信じていることは違うと、彼らはそれを攻撃するのです。「私の信じていることは正しいと思うけれど…」と少し確信がぐらついてしまうと、もし、あなたがそのような状況にあるとしたら、また、そういう人を知っていたら、そのような信仰をより強固なものに揺がないものにするにはどうすればいいのか？今日、私たちが見ていくことがそれです。それはイエス・キリストの復活をしっかりと信じてそれに立つことです。このイエス・キリストの復活こそが私たちの信仰の土台だからです。

パウロはこのメッセージの中でそのことを教えようとするのです。かつてはそれを信じていた。パウロも信じていましたし、この人たちは本当にこの福音のメッセージを信じていたのです。それでいてその中の何人かがその確信がぐらついているのです。そこでパウロは今一度このイエス・キリストの復活について、この人たちに教えようとするのです。私たちもいっしょにそのことを見ていきましょう。

☆パウロが証明する「主イエスの復活の真実」

A. 偽善の人生 14-15節

1 : 13-15 「:13 もし、死者の復活がないのなら、キリストも復活されなかったでしょう。:14 そして、キリストが復活されなかったのなら、私たちの宣教は実質のないものになり、あなたがたの信仰も実質のないものになるのです。:15 それどころか、私たちは神について偽証をした者ということになります。なぜなら、もしもかりに、死者の復活はないとしたら、神はキリストをよみがえらせなかったはずですが、私たちは神がキリストをよみがえらせた、と言って神に逆らう証言をしたからです。」、イエスが死者の中からよみがえって来た。もし、イエス・キリストが死者の中からよみがえらなければ、それが意味することは、私たち人間は死んだらそれで終わるということです。そのことを13節で告げています。しかし、イエスは完全にその死からよみがえって来られた。でも、もし、それを否定したとしたら、イエスが死からよみがえって来なかったとしたら、私たちは偽りの人生を生きていることになるということです。なぜなら、私たちはイエス・キリストが死からよみがえったことを信じているわけで、それが事実でないとしたら、私たちの人生は偽善の人生だということなのです。

パウロはイエス・キリストの復活の重要さを知っていました。そして、彼が言うのです。もし、この復活を否定するのなら、それは私たちクリスチャンにとって重大な三つの真理を否定することになると。

まず、私たちが「福音の真実さを否定する」、私たちが語っている福音のメッセージが真実ではないことになると言います。次に、もしキリストの復活がないとしたら、私たちが信じている「信仰の確実さを否定してしまう」と言い、三番目に「私たちの神への愛に問題がある」と言うのです。どういうことか？説明します。

◎復活を否定することによってもたらされる真理の否定とは？

1. 福音の真実さ 14節

イエスがよみがえって来なかったなら、私たちは真実でないことを話して来たこととなります。14節に「キリストが復活されなかったのなら、私たちの宣教は実質のないものになり、」とあります。

「実質」 : 「実を結ばない、虚しい、役に立たない、無駄な」ということです。何がそうなのか？

「宣教は」 : つまり、彼らが宣べ伝えたメッセージのことです。

◎どんなメッセージか？

すでに見たように、Iコリント15：3、4「:3 私があなたがたに最もたいせつなこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおり、私たちの罪のために死なれたこと、:4 また、葬られたこと、また、聖書の示すとおり、三日目によみがえられたこと、」です。彼らはこのメッセージを伝えたのです。また、パウロ自身も使徒の働き20：21で「ユダヤ人にもギリシヤ人にも、神に対する悔い改めと、私たちの主イエスに対する信仰とをはっきりと主張したのです。」と語っています。

パウロを含めた信仰者たちは、イエス・キリストが十字架で死なれたその理由は何か？それは、私たちの罪の身代わりであったこと、そして、イエス・キリストは約束通り三日後に死からよみがえって来られた、なぜなら、この方は神であり救い主だから、でも、あなたがたはその神を信じることもなくその救いを受け入れることもなく逆らい続けて来た。だから、罪を悔い改めてこの方を受け入れなさいと、この福音のメッセージを語って来たのです。

◎パウロはいったいどこからこのメッセージを得たのか？

パウロはだれかのメッセージを聞いてそれを受け売りして話していたのでしょうか？パウロ自身がそのことを教えています。ガラテヤ人への手紙1：11-12を見てください。「:11 兄弟たちよ。私はあなたがたに知らせましょう。私が宣べ伝えた福音は、人間によるものではありません。:12 私はそれを人間からは受けなかったし、また教えられもしませんでした。ただイエス・キリストの啓示によって受けたのです。」、「啓示によって受けた」とあります。「啓示」とは「神が明らかにしようとしたからその真理を知ることになった」ということです。神が私たちに明らかにしようとしたことを明らかに分かっていただくのです。パウロが言っていることは「私が語っているこの福音のメッセージはだれかから聞いてそれを受け売りしているのではなくて、神ご自身が直接的に私にそのことを教えてくださった」ということです。

神がこの福音のメッセージの真理を私に明らかにしようとなさり、そして、それを私に教えてくださった。こうして私はこの福音のメッセージを知ることになったのだとパウロは語っているのです。ですから、パウロは「私の語っているこの福音のメッセージは神からいただいたメッセージだ」と語っているのです。ですから、その福音宣教のためにパウロはいのちがけでこのメッセージを語り続けて行こうとしたのです。使徒の働き20：24「けれども、私が自分の走るべき行程を走り尽くし、主イエスから受けた、神の恵みの福音をあかす任務を果し終えることができるなら、私のいのちは少しも惜しいとは思いません。」と、まさに、いのちがけでこの福音のメッセージを語り続けたのです。なぜなら、神が私に託してくださったメッセージだからと、そのことを知っていたからパウロはこの福音のメッセージに何かを付け加えたり、また、何かを取っていくようなことがあるなら、そういう人たちに対して大変厳しいことばを使って責めるのです。

ガラテヤ1：8-9をご覧ください。「:8 しかし、私たちであろうと、天の御使いであろうと、もし私たちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その者はのろわれるべきです。:9 私たちが前に言ったように、今もう一度私は言います。もしだれかが、あなたがたの受けた福音に反することを、あなたがたに宣べ伝えているなら、その者はのろわれるべきです。」と大変厳しいことばで非難しています。そのようなことをする人たちは神に対して大変大きな罪を犯していると言うのです。ですから、パウロはこの福音のメッセージにいのちを賭けていました。この福音のメッセージに混ぜ物をする事なく、福音のメッセージの純潔を保ちながらこのメッセージを語り続けたのです。なぜなら、これは神が私に託してくださったメッセージだからと。そのパウロが言うのです。「もし、このイエス・キリストの復活が事実でなければ、私が語って来たこの福音は全く無益なものである。」と。彼は語りました。イエス・キリストは私たちの罪のために死に、三日後によみがえって来た。でも、そのよみがえりが事実でないとするなら、これは人を救うメッセージではないのです。だから、全く虚しいものだと言うのです。

2. 信仰の確かさ 14節

もし、イエス・キリストの復活が事実でないとしたら、私たちの信仰そのものが虚しいと言います。偽りのメッセージに救いはありません。この15：14に「…あなたがたの信仰も実質のないものになるのです。」とある通りです。私たちの宣教だけでなく信仰も実質のないものになると書かれています。つまり、実を結ばない、虚しいもの、役に立たないものです。イエスを信じた私たちは罪が赦されたと確信しています。私たちは今日死んでも永遠を神とともに過ごすということを信じています。日に日に私たちの肉体は弱っていきますが、私たちは死んでも生きるということを信じています。だから、パウロは「もし、イエス・キリストの復活が事実でなければ、この福音に救いはない。ただ、あなたがたはそ

れを信じているのに過ぎない。事実でないものをただ信じて、そして「救われた」と言って喜んでるに過ぎない。」と言うのです。

先ほども見たように、パウロたちは、どうすれば救われるのか？どうすれば罪を赦していただけるのですか？という問い掛けに対して明確に答えていました。使徒 16 : 30-31 「:30 …「先生がた。救われるためには、何をしなければなりませんか」…」と問い掛けた看守に対して「:31 ふたりは、「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」…」と答えています。敢えて、このことだけを言ったのは、それ以外のことは看守たちが聞いていたからです。彼らは福音のメッセージを聞いていたのです。イエスがなぜ十字架で死んだのか？そして、彼が三日後によみがえって来たというメッセージです。そして、私たちは神に逆らって来た者として、その罪を認めその罪を悔い改めて神が備えてくださった完全な救いを心から感謝していただくことだと伝えたのです。こうしてパウロは福音を語って来ました。そして、その福音を聞いた者たちもそれを信じたことによって「私は罪を赦していただいた、救いに与った」とその確信を持ったのです。

ところが、イエスがもしよみがえって来なかったとするなら、福音そのものが違ったのです。十字架に架かって死んだイエスは、そのまま今も墓の中にいます。それはこの方が救い主ではなかったことを証明するのです。この方が言われていたような神ではないことを証明するのです。だから、パウロは「もし、主イエス・キリストが死からよみがえって来なかったとするなら、イエス・キリストを信じることによって罪が赦されるというこの福音は事実無根である、ここには救いはない。」と言います。ただ、そのように自分が思い込んでいたに過ぎないと…。

3. 神への愛 15 節

三つ目は「神への愛」です。15 節「それどころか、私たちは神について偽証をした者ということになります。なぜなら、もしもかりに、死者の復活はないとしたら、神はキリストをよみがえらせなかったはずですが、私たちは神がキリストをよみがえらせた、と言って神に逆らう証言をしたからです。」「神に逆らう証言」、つまり、神がしなかったことを神がしたと言って偽りの証言をしたと言っているのです。どうして、神を愛する者にこのようなことができるのでしょうか？神を愛する者たちは神が仰せられたことを心から喜んで受け入れ、それを喜んで実行しようとする者たちです。神がお喜びになることをしっかりと見極めて、そして、それを実践して行こうとします。なぜなら、救いに与った私たち、神を愛する者たちは、神を喜ばせたい、神だけを喜ばせたいと願って生きているからです。「神が喜んでくださることが私にとって最大の喜びである」と、そのことをただ口にするだけでなく、実践し、そのように生きている人たちのことです。

ですから、神が忌み嫌われること、罪を犯しながら「神を愛している」ともし言うのであれば、その人は最大の偽善者です。パウロは言います。「我々は神を愛している。もし、イエスがよみがえらなかつたとしたら、我々は神に対して嘘をついたことになる。」と。ということは、私たちが神を愛すると言いながら実は神を愛していないことが明らかになるということです。クリスチャンは神からこの救いのメッセージを託された者たちです。だから、その福音のメッセージを正確に語ります。私たちはこの福音のメッセージを語る者です。まず、それを自分自身が受け入れて救いに与った者ですから、神を愛する者として生まれ変わったのですから、私たちが語るメッセージも、私たちが信じるその信仰も真実です。そして、私たちが愛する主イエス・キリストは私の身代わりとなって十字架で死に三日後に約束通りに死からよみがえって来られた方です。そして、今も生きておられる真の神です。それを私たちが否定するなら私たちの信仰そのものが否定されることになるのです。ですから、パウロはこうして「思い出しなさい。私たちがいったい何を信じたのか？と。」と言うのです。

確かに、この時代と今の私たちの時代とは違う所があります。この 15 : 4-8 「:4 また、葬られたこと、また、聖書の示すとおりに、三日目によみがえられたこと、:5 また、ケパに現れ、それから十二弟子に現れたことです。:6 その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現れました。その中の大多数の者は今なお生き残っていますが、すでに眠った者もいくらかいます。:7 その後、キリストはヤコブに現れ、それから使徒たち全部に現れました。:8 そして、最後に、月足らずで生まれた者と同様な私にも、現れてくださいました。」と、実際に、イエス・キリストの十字架を見た者たちがその当時はいたのです。しかも、この箇所のみことばが教えるように、イエス・キリストがその死から敢然とよみがえって来た、そのよみがえりの主を見た者たちがいるのです。彼らはこのパウロのメッセージを否定するどころか、パウロのメッセージをサポートするのです。なぜなら、彼らは実際にイエス・キリストを見たからです。そのことを今一度思い起こさせて、そして、このイエス・キリストの復活がどれほど大切なのかをこの読者たちに教えたのです。そして、今の私たちにとっても大切です。もし、イエス・キリストの復活が事実でないとした

ら、私たちクリスチャンはこの地上にいて最も哀れな存在だとパウロは言います。そのことはこの後の16節から19節に書かれています。

B. 最も哀れな人生 16-19節

16-19節「:16 もし、死者がよみがえらないのなら、キリストもよみがえらなかったでしょう。:17 そして、もしキリストがよみがえらなかったのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今もなお、自分の罪の中にいるのです。:18 そうだったら、キリストにあって眠った者たちは、滅んでしまったのです。:19 もし、私たちがこの世にあってキリストに単なる希望を置いているだけなら、私たちは、すべての人の中で一番哀れな者です。」

1. 罪の赦しがない 16、17節

なぜ、哀れな人生を過ごしていると言えるのか？先ず、パウロが言うのは「罪の赦しがないのに罪が赦されたとあなたがたは思い込んで生きているから、あなたがたの信仰はむなし。」ということです。「むなし」とは「空虚なもの、無益な無意味なもの」ということです。その後「あなたがたは今もなお、自分の罪の中にいるのです。」と、つまり、まだあなたの罪は赦されていませんよということです。赦されていないのに赦されたとただ思い込んでいるのに過ぎないと。確かに、哀れです。何の根拠もなく、ただそれを信じているに過ぎない、全く哀れです。こうしてパウロは、罪が赦されていないのに赦されたとあなたがたはただ勝手に思い込んでいると言います。

2. 永遠の地獄へ 18節

「…キリストにあって眠った者たちは、滅んでしまったのです。」「キリストにあって眠った者たち」とは「キリストを信じて肉体的に死を迎えた者たち」ということです。クリスチャンたちがこのように肉体の死を「眠る」というのは、必ず、眠りから覚める時が来るからです。それが復活なのです。そのようにクリスチャンたちは信じているわけです。ですから、先に眠った私たちの愛する者たちは必ずその死からよみがえって来る日が来ます。でも、パウロは「もし死者の復活がないとしたら、イエスが死からよみがえって来なかったとしたら、…それは人間は死んで終わり、死んだ後よみがえることはないということだ。」と言うのです。それなら、「よみがえる」ということを信じた人たちはよみがえることなく今どこにいるのか？よみがえりを待っているのではなく、永遠の滅びに至ったと言っているのです。

そのことをパウロがここで言っているのです。彼らはただ眠って復活の日を待っているのではない。彼らはすでに滅んでしまったと言います。「滅び」というのは「破壊、破滅」を含むことばです。マタイ10:28には「からだを殺しても、たましいを殺せない人たちなどを恐れてはなりません。そんなものより、たましいもからだも、ともにゲヘナで滅ぼすことのできる方を恐れなさい。」とあります。「滅ぼす」ということばがここでも使われています。ですから、パウロが言いたかったことは「もし、キリストの復活がないとしたら、この人たちは天国に行くと思っているけれど、残念ながら、永遠の滅びに向かっていく。」ということです。

3. 無駄で空虚な人生 19節

もう一つ、19節「もし、私たちがこの世にあってキリストに単なる希望を置いているだけなら、私たちは、すべての人の中で一番哀れな者です。」「一番哀れな者、一番惨めな者だと言っているのです。なぜならただ希望を持って生きているだけだからです。「よみがえる」という希望がただの希望でそれは現実ではなかったのです。よみがえることを信じていたけれども、そのよみがえりがなかったとしたら、凄くみじめだ、真実だと思っていたのにそうではなかったということです。

多くのクリスチャンたちは大変な迫害を経験して来ています。この21世紀の今日でも、2019年の今でもこのような統計があります。今、この現在、世界中で1日に11人が殺されています。もちろん、いろんな教派があることは分かっていますが、データーとして毎日11人のクリスチャンが世界中で殺されているのです。なぜ、彼らは信仰のためにいのちを捨てるのですか？否定すれば自由になる訳でしょう？死から逃れることはできるでしょう。でも、彼らは死を選択しているのです。なぜか？イエス・キリストがよみがえったからです。

確かに、イエス・キリストはその死からよみがえってくださった。だから、どんな迫害を経験しようと、どんな孤独を経験しようと、どんなに涙を流そうと彼らは確信を持っていたのです。イエス・キリストは死からよみがえった救い主であり神であると、それが彼らの確信だったのです。今でも、北朝鮮でもアフガニスタンでもソマリヤでも、リビアでもパキスタンでもスーダンでも、いろんな所でクリスチャンたちがその信仰ゆえにいのちを落としています。

もし、イエス・キリストの復活がなければ彼らは最もみじめな者です。嘘のために自分のいのちを賭けたのです。そのことを話した後パウロはこう言います。20節「しかし、」と。

C. 最も祝された人生 20節

20節「しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。しかし、今やキリストは、眠った者に初穂として、死者の中からよみがえられました。」、ここに「初穂」ということばが使われています。ある人にとっては聞き慣れないことばかもしれませんが。実は、旧約聖書のレビ記23：10に「イスラエル人に告げて言え。わたしがあなたがたに与えようとしている地に、あなたがたが入り、収穫を刈り入れるときは、収穫の初穂の束を祭司のところに持って来る。」と書かれています。農夫が収穫を迎えたときにまずその収穫の中から一部を取って祭司の所に持って来るのです。そして、それを神へのささげ物として彼らは神にささげるのです。これが「初穂」だったのです。それは神へのささげ物だったのです。この「初穂」が意味したことは初穂の後には収穫が続くということです。収穫をする前にまず一部をとって神のところに持って来るのです。これが終わって神が祝福されたら、その後彼らは出て行って刈り入れをするのです。

パウロは敢えてこのことばをここで使うのです。見ていただくと「今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。」と、主イエス・キリストは、ちょうど初穂が神にささげられたように、そして、初穂はその後に刈り入れ、収穫が続くことを意味したように、イエス・キリストが死からよみがえったことによって、その後に同じようにこの死からよみがえって来る者たちが起こって来ると、そのことを意味したのです。それはあなたであり私なのです。それが神ご自身が私たちに約束してくださったことです。

私たちはただ罪を赦していただいただけではないのです。私たちは肉体の死を経験するかもしれませんが。でも、それで終わるのではないのです。私たちはその死からよみがえってこの私たちを愛してくださり救いをくださった神と永遠をともに過ごすのです。イエス・キリストの復活というのは、まさに眠った者たちの初穂として、その死からよみがえることによって「いいですか、皆さん、わたしを信じるあなたはわたしが死からよみがえって来たのと同じように死からよみがえり、そして、あなたはわたしとともに永遠を過ごすのです。」と、そのことを証明したのです。

このイエス・キリストの死からのよみがえり、今、約二千年経っても世界中でこのキリストの復活をこうして祝うのです。イエス・キリストの復活は次のことを証明します。私たちはイエス・キリストの十字架の死と復活を語って来ましたが、あなたの福音は間違っていなかったということが証明されたのです。あなたも私もイエス・キリストの十字架と復活を信じて来ましたが、あなたの信仰は間違っていなかったことがこの復活によって証明されたのです。そして、主イエス・キリストのよみがえりを語ったあなたの証言は間違っていなかったのです。イエスが十字架で死に三日後によみがえられたと、そう語って来たあなたの証言は間違っていなかったのです。

なぜなら、それは事実であり、神を愛するあなたは神が成し得たその救いのみわざを曲げることなく語って来たからです。主イエス・キリストは確かにその死から敢然とよみがえって来られた。このイエス・キリストだけが私たち人間に罪の赦しを与えてくださるのです。お気付きになったように、彼は宗教家ではなかったのです。キリスト教を開いたのではなかったのです。彼はあなたの身代わりとなって十字架に掛かってくださり、あなたのすべての罪をその身に負って、罪の無いお方があなたが受けるべき罪のさばきを代わりに受けてくださったのです。ご自分のいのちという犠牲をもって、あなたに罪の赦しを備えてくださったのです。彼は教祖ではないのです。彼は救世主です。あなたを造った神があなたを救うために来てくださり、そして、救いを完成してくださったのです。そのすべてのことを証明したのがこのイエス・キリストの死よりの復活です。

パウロはローマ人への手紙の中で教えます。ローマ1：4「聖い御霊によれば、死者の中からの復活により、大能によって公に神の御子として示された方、私たちの主イエス・キリストです。」、キリストの復活はイエスがだれであるかを明らかにしたのです。イエスが地上におられたときに、何度も何度もご自分が神であり救い主であるということをお話しになられました。でも、ユダヤ教の教師たちはそれを信じたくなかった。そこで彼らが常に言ったことは「では、しるしを見せてください。」、つまり、「奇跡を行ってください、そうしたら信じるから…」でした。でも、イエスは彼らの前で奇跡を行わなかった。なぜなら、彼らは信じたいと思っていたのではなく、イエスを試してそう言ったからに過ぎなかったからです。彼らの心は頑なで閉ざされていたからです。そんな人たちにどんな奇跡を行っても彼らの心が開かないことをイエスは知っていたからです。

そこでそのような質問を続ける彼らに対してイエスが言われたことは「…悪い、姦淫の時代はしるしを求めています。だが預言者ヨナはしるしのほかに、しるしは与えられません。」（マタイ12：39）でした。何のことを言われたのでしょうか？このことは他にもマタイ16：4、そして、ルカ11：29にも

書かれています。ルカ 11 : 29-30 「:29 さて、群衆の数がふえてくると、イエスは話し始められた。「この時代は悪い時代です。しるしを求めているが、ヨナのしるしのほかに、しるしは与えられません。:30 というのは、ヨナがニネベの人々のために、しるしとなったように、人の子がこの時代のために、しるしとなるからです。」、イエスは「あなたがたはしるしを求め、わたしはその要望に応じていつもしるしを与えるわけではない。ただ一つだけしるしを与えよう。そのしるしというのはヨナのしるしだ。」と言われたのです。

覚えていますか？神はヨナをニネベという町に遣わそうとしました。ところが、ヨナは行きたくなかった。「あれは自分の憎む町だ。憎む人々が住んでいる所だから」と。ですから、彼は別の船に乗ってタルシシュに向かおうとします。その時に大変な嵐が起こって船乗りたちはみな恐れたのです。だれも経験したことのない大変な嵐でした。でも、ヨナはそこで眠っていました。なぜなら、ヨナは何が原因でこのことが起こったのかを知っていたからです。そこで彼が言ったことは「私を海に投げ込んでください」でした。彼らは恐る恐るヨナを海の中に投げ込みました。そうすると海が凧になった。その時に神が何をされたか？大きな魚をもってヨナをその魚に飲み込ませてしまいます。三日間魚の腹の中にいたときにヨナは罪を悔い改めるのです。そして、その時に神は彼をニネベへと送ります。このしるしだと言うのです。イエス・キリストは十字架に掛かった後、何日間墓の中にいましたか？三日です。そして、その墓から敢然と肉体をもってよみがえって来られました。イエスはこうしてこのよみがえりこそがわたしがだれであるかを証明するしるしだと言われたのです。

私たちはこの歴史上の事実をみことばを通して知っている訳です。もっと言えば、このイエスの復活によって世界が変わったのです。クリスチャンたちが喜んでいのちを捨て始めたのです。なぜなら、彼らはイエス・キリストの教えに沿って「私たちは死んでも生きるのだ」という信仰を持って生きたからです。イエス・キリストは死なれていたのに敢然とよみがえって来られた。私たちも同じになるのだと、その主の約束を信じたからです。

イエスは確かに、私たちにすばらしいしるしを示してくださいました。奇跡のみわざを為してくださいました。復活という出来事をもって私たちにイエスがだれであるかを明らかにしてくださいました。弟子たちはこのイエス・キリストを語りました。そして、その務めは私たちにも与えられています。私たちもこの福音を語るのです。イエス・キリストは私たちの罪の身代わりとなりあの十字架で死に、そして、よみがえってくださった。そのことをただ信じるだけでなく、私たちはそのメッセージを語り続けていくのです。

弟子たちはイエスから全世界に出て行ってすべての造られた者たちに福音を宣べ伝えなさいと、そのように命令を受けます。マルコ 16 : 15、20 「:15 それから、イエスは彼らにこう言われた。「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。」と、それを聞いた弟子たちは「:20 そこで、彼らは出て行って、至る所で福音を宣べ伝えた。主は彼らとともに働き、みことばに伴うしるしをもって、みことばを確かなものとされた。」のです。

信仰者の皆さん、私たちはこのイエス・キリストが死からよみがえって来られたこの復活、イースターを記念して今日集まりました。でも、記念して集まるのがこの集まりの目的ではなかったのです。私たちがこの日にこの場に集まって来たのは、私たちが私の神がどんな神なのかを今一度覚えるためです。この方は生きておられるのです。死から敢然とよみがえって来られ、そして、私たちに救いを備えてくださり、救ってくださり、生かしてください、そして、私たちを使ってください真の神です。

この神によって備えられた救いを語るのです。もし、その決心がないままこの場を去ったとしたら、ただ私たちがこの日を迎えたに過ぎません。ひとり一人自分の心に尋ねてみてください。私はこのイエス・キリストの救いを喜んでるか？イエスが備えてくださった救いを感謝しているか？このイエスのすべてを私は誇りとしているか？です。このような信仰者として神が私たちをみもとに呼んでくださるときまで、この方に従い続けて行くこと、それは私たちがどうしてもしなければいけないことではなくて、私たちにとっての特権でしょう。こんなにすばらしい神に仕えることが赦されたのです。その人生をしっかりと走り切っていきましょう。イエスは死からよみがえり今も生きておられます。この方に仕えることができるのです。